

I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等

1. 建学の精神・大学の基本理念

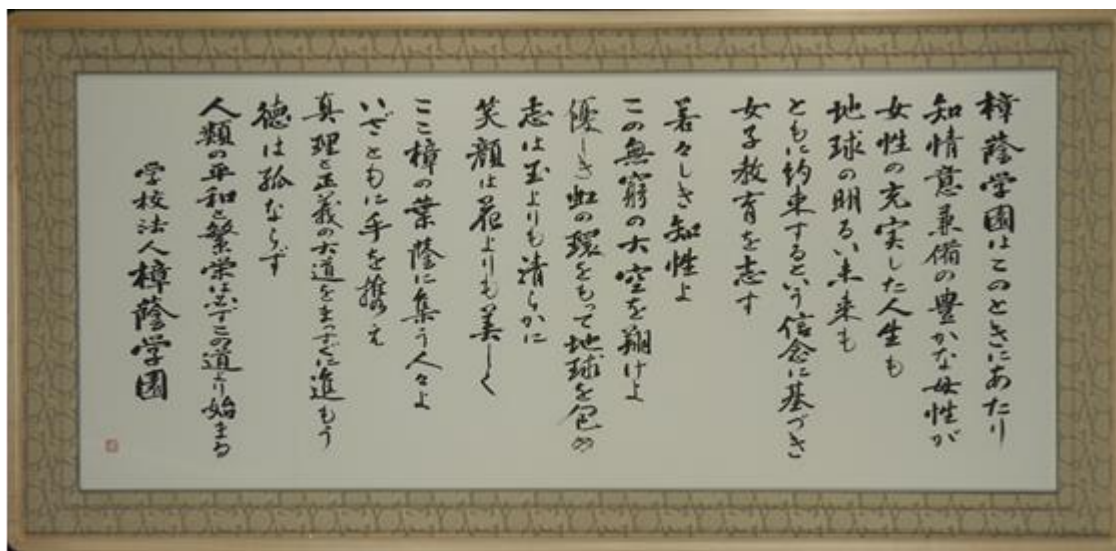
大阪樟蔭女子大学の“建学の精神”は、樟蔭学園の創立者である森平蔵の志を原点とする、「高い知性と豊かな情操を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成」という言葉に集約され、現在に至るまで継承されている。

本学の母体となる樟蔭高等女学校が設立された大正 6（1917）年当時、女子教育の状況は、大正デモクラシーの進展もあって高等女学校への進学率が急速に高まり、入学難を呈するようになっていた。特に大阪では女子のための中等・高等教育機関が少なく、進学希望の小学生は狭き門を突破するため、たいへんな受験勉強を強いられていた。実業家であった森平蔵は、こうした児童・生徒の心身発達の過程上、悪影響を及ぼしかねない不毛の受験勉強を憂い、さらに狭き門から生じる偏った秀才教育に異をとнаえて、内容の充実した質の高い女子教育を推進するため、巨額の私財を投じて私立樟蔭高等女学校を設立した。

このような創立者の熱き思いを反映して、樟蔭高等女学校においては、当時の女子教育に手薄であった教養教育の充実を図り、高い知性と豊かな情操を兼ね備えた女性を育成することを目的として、最高の教育環境と設備が整えられた。そして、その精神を踏まえて、当時の女子の高等教育機関、すなわち本学の直接の前身となる樟蔭女子専門学校を大正 14（1925）年に設立した。その後、樟蔭学園は、第二次世界大戦後の教育改革を経て幼稚園、中学校、高等学校、大学、大学院からなる女子の総合学園としての歩みを続けてきた。

本学園は、いつの時代も「高い知性と豊かな情操を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成」という“建学の精神”の趣旨を継承し、確固たる校風を熟成するための努力を積み重ねてきた。21 世紀に入って平成 14（2002）年には、この“建学の精神”を再度確認するミッションステートメントを定めた〔表 I-1-1〕。

〔表 I-1-1〕 ミッションステートメント



そして本学では、さらに平成 23（2011）年、多様化し、急速に変化する現代社会を生きて行くことができる、次のような人物の育成を教育の目的として定めた。

- ・自ら情報を収集・精査し、広い視野からものごとを判断し、自らの道を切り拓く自律的な生き方ができる人。
- ・堅実で心豊かな社会生活を営むことのできる「知恵」を身に付けた人。
- ・職場・家庭・地域社会において人間関係の要となる人。

さらに令和3（2021）年には、“建学の精神”を改めて確認する意味も込め、上記3項目に「高い知性と豊かな教養に基づき、生涯にわたって学び続けられる人。」という人物像を付け加えた。

一方、本学大学院人間科学研究科では、

- ① 人間を多面的かつ深く探求するとともに、人間生活の質の向上に資する専門的能力を習得できる人。
- ② 高度専門職業人として社会に貢献できる人。

という人物を育成することをミッションとして定めている。

このように本学では、これまでも、そしてこれからも創立者の熱い思い―“建学の精神”を原点に、時代や社会の変化に対応し、社会に貢献できる女性の育成を目指した高等教育を創造していく。

2. 使命・目的

上記の“建学の精神”に基づき、本学の使命・目的については、「大阪樟蔭女子大学学則」並びに「大阪樟蔭女子大学大学院学則」第1条において、次のように定めている。

大 学「広く一般学科に関する知識を授けると共に、深く専門の学術技芸を教授研究して知性を磨き女性としての豊かな情操と高き品性とを養成するをもって目的とする」

大学院「大阪樟蔭女子大学の教育理念に則り、学部教育の基礎の上に、広い視野に立って精深な学識を教授し、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うと共に、女性としての特性と人格を陶冶し、もって文化の進展に寄与することを目的とする」

そして本学が育成する人物像として、令和3（2021）年度、大学では、

1. 高い知性と豊かな教養に基づき、生涯にわたって学び続けられる人。
2. 自ら情報を収集・精査し、広い視野からものごとを判断し、自らの道を切り拓く自律的な生き方ができる人。
3. 堅実で心豊かな社会生活を営むことのできる「知恵」を身につけた人。
4. 職場・家庭・地域社会において人間関係の要となる人。

以上4項目を掲げ、「自律」と「知恵」と「要」をキーワードとした教育を展開している。

また大学院では、

- ①人間を多面的かつ深く探求するとともに、人間生活の質の向上に資する専門的能力を習得できる人。
- ②高度専門職業人として社会に貢献できる人。

以上2項目を掲げている。

3. 大学の個性・特色

A 100年を越える女子教育～女子のための教育という“種”を育み、次代へつなぐ～

大阪樟蔭女子大学の歴史は、大正 6（1917）年に設置された樟蔭高等女学校に始まる。樟蔭高等女学校は、当時経済的な発展の下、拡大を続けていた大阪市の郊外の現小阪キャンパス（大阪府東大阪市）の地に校地を定めた。翌大正 7（1918）年に樟蔭高等女学校本科及び専攻科の第 1 回入学式を挙行し、大正 11（1922）年には高等科を設置した。さらに大正 14（1925）年には当時最高の女子高等教育機関である女子専門学校を設置認可を受け、翌大正 15（1926）年 4 月、本学の直接の前身である樟蔭女子専門学校を開学した。向学心と希望にあふれる良家令嬢の学びの場として、当時では日本有数の女子教育を提供していた。

第二次世界大戦後の教育改革により、昭和 24（1949）年には大阪樟蔭女子大学学芸学部を開学し、女子大学としての歩みを始めた。

その後、女子の高等教育への進学率が上昇する中で、昭和 62（1987）年、現在の奈良県香芝市に樟蔭女子短期大学を開設し（関屋キャンパス）、それまで以上に多様な女子教育を展開するに至った。さらに平成 13（2001）年には開学以来の大きな改組を行い、関屋キャンパスに人間科学部を設置、短期大学を短期大学部へと名称変更し、小阪キャンパスの学芸学部とあわせて、2 学部・短期大学部体制をとった。さらに、平成 21（2009）年には第 2 次改組により関屋キャンパスでは人間科学部を、児童学部・心理学部の 2 学部に改組し、全学的には 3 学部・短期大学部体制となった。そのうち短期大学部は、平成 24（2012）年に募集停止とした。

また、平成 16（2004）年には、大学院人間科学研究科（臨床心理学専攻）を設置したが、翌平成 17（2005）年には人間栄養学専攻、さらには平成 25（2013）年には化粧ファッション学専攻の 2 専攻を加え、現在は上記 3 専攻からなる大学院へとより高度で専門的な学びを身につけることができる環境を整備してきた。

そして学園創立 100 周年となる平成 29（2017）年に向けて、充実した学生サポート体制、質の高い教育を実現すべく学部・学科の再編を行い、平成 27（2015）年 4 月に、全学部・学科を本学発祥の地である小阪キャンパスに統合し、学芸学部（国文・国際英語・心理・ライフプランニング・被服の 5 学科）、児童学部（児童学科）、健康栄養学部（健康栄養学科）の 3 学部 7 学科体制をとった。さらに平成 28（2016）年には、学芸学部被服学科を化粧ファッション学科に改称し、平成 30（2018）年に児童学部を児童教育学部（児童教育学科）に改め、現在の学芸学部（国文・国際英語・心理・ライフプランニング・化粧ファッションの 5 学科）、児童教育学部（児童教育学科）、健康栄養学部（健康栄養学科）の 3 学部 7 学科体制をとるに至っている。

東日本大震災が起こった平成 23（2011）年 3 月 11 日以降、理念無き科学技術への懐疑、その一方で ICT 技術の急速な発展もあいまって、人びとの価値観の多様化が進展した。同時に国際連合による SDGs・17 の開発目標が社会において広範に認知される状況からも推測されるように、持続可能な社会の形成に向けた取り組みの重要性が認識されるに至っている。さらに令和元（2019）年末から起こった、100 年に一度と言われる感染症のパンデミック—新型コロナウイルス感染症 COVID-19 の世界的感染拡大は、日本の大学教育においても遠隔授業の本格的実施など、ICT 技術の進展の中で進んでいた教育環境の改変への

さらなる対応が求められることとなった。こうした社会や時代の変化、高等教育をとりまく環境変化の中であって本学は、100 年を越えてこれまで培ってきた女子のための教育における蓄積を活かしながら、時代や社会の変化に対応し、社会に貢献できる女性の育成という“建学の精神”を追求していく。

B グランドデザイン 2030 “美 Beautiful”

学園の創立 100 周年に当たる平成 29 (2017) 年、本学では、“建学の精神”を踏まえつつ現代社会の課題に対応し、西暦 2030 年に向けてのグランドデザイン「美 (知性・情操・品性) を通して社会に貢献する～美 Beautiful 2030～」を策定し、本学が目指す将来像を提示した。そこでは、「3 つの美 (知性美・情操美・品性美) に基づく教育や研究を展開し、他の大学には真似のできない学びで社会対応力を有する美しい女性の育成を実現」することを謳うとともに、次の 6 つのビジョンを掲げた。

1. 知性の「美」を中心に、情操の「美」、品性の「美」を高める学び
2. 充実したキャンパスライフを支えるサポート体制
3. 良きパートナーシップ精神をもった地域貢献、社会貢献の推進
4. アカデミックな観点から「美」にアプローチする研究の推進
5. 多様性を尊重し合う学生の受け入れ
6. 樟蔭から世界につながるネットワーク構築

そして、“美 Beautiful”をキーワードに、さまざまな施策を実施している。

特に大学開設 70 周年に当たった令和元 (2019) 年以降は、ビジョン 1. について、副専攻制度の中に「美をめぐる諸領域」を設け、“美”についてさまざまな事例を通して考える科目群を展開している。また、ビジョン 2. についても、平成 27 (2015) 年の小阪キャンパスへのキャンパス統合の際、清志館 1 階に設けたラーニングサポート・キャンパスライフサポート・キャリアサポートからなる学生サポートに加えて、アカデミックライティングのサポートを行うライティング・ヘルプ・デスクの開設、教員採用試験受験者へのサポートの充実を目指した教職支援センターの開設など、その充実を順次進めている。また、ビジョン 3. については、「くすのき地域協創センター」が中心となり、「イキ×ラボチャレンジプロジェクト」を募り、授業やサークルとは別の回路で地域社会の中で活躍できる女性の育成を目指した活動を展開している。「イキ×ラボチャレンジプロジェクト」は、とりわけ令和 3 (2021) 年度からは SDGs とリンクさせて、より社会の課題解決に貢献できるよう取り組んでいる。

さらに、ビジョン 4. については、令和 2 (2020) 年 4 月に樟蔭美科学研究所を開設し、本学の学びの中から“美”に関わるテーマについての研究を行い、地域の経済・社会、雇用、文化の発展や特定の分野の発展・深化に寄与することを目指した。ただ、令和元 (2019) 年末からの新型コロナウイルスのパンデミックの影響は想像以上に大きく、十分な活動が行えていないことが悔やまれる。しかしこのような状況にあっても、できるところ、できることから“美”に関わる研究を推進していく。また、ビジョン 5. とビジョン 6. についても新型コロナウイルスのパンデミックの影響は大きい。特にビジョン 6. については、派遣及び受入れ双方の留学生の拡大を計画していたが、現下の状況では成果と呼ぶべきものを得られないままとなっている。それでも、これまで「樟蔭英語教育センター」として英語